

食品廃棄物の発生抑制・循環型リサイクル



株式会社原信 小売業

●取り組みの目的・きっかけ

原信では「事業活動と自然環境との調和を常に考え行動する」を環境理念に掲げ、環境に配慮した事業活動の一つとして廃棄物の削減・リサイクルや環境に配慮した商品の販売、リサイクルを通じた社会貢献活動を行っています。

●取り組みの概要・ポイント

○ 食品廃棄物の発生抑制

データに基づいた商品製造数・発注数の決定、週中での計画の見直しなどを行い、食品廃棄物をできる限り発生させないように努めています。

また恵方巻など、季節で扱販する商品については、各店舗の商品数量の過不足を把握し、商品を店舗間で移動することで、食品ロスを減らしています。

○ 循環型農業の参画

店舗から排出された野菜くずは堆肥にリサイクル、栽培された野菜を原信で販売しています。使い終えた食用油はトマト栽培用ビニールハウスを温める燃料として使用、高糖度のフルティカトマトを生産、原信で販売をしています。

●取り組みの成果

◎ 食品廃棄物の発生抑制

売上金額に対する廃棄商品金額の割合を示す廃棄率は、0.25%まで低減しました。(2024 年度実績)

廃棄率の推移



◎ 循環型農業の参画

津南持続循環型農業では、年間約 760tの野菜くずを、四ツ郷農業生産組合様との取り組みでは、年間約 41tの廃食用油をリサイクルできたのと同時に、スイートコーンやキャベツ、フルティカトマトなどを原信で販売することで循環の環(わ)が形成できました。

取り組みの結果、食品リサイクル率は 68.0%となりました。(2024 年度実績)

野菜くずの循環

野菜くずを提供
(約760 t)



生産した野菜を
原信で販売！



牛ふん等と混ぜ
2~3か月で堆肥に
(約15 t)

廃食用油の循環

廃食用油を提供
(約41 t)



生産したトマトを
原信で販売！！



トマト栽培の
ビニールハウスを
暖める燃料に使用